科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：情報リテラシとしてのソーシャルプログラミング ILAS Seminar :Social Programming as an Information Literacy			担当者所属 職名・氏名	情報環境機構 教授　　渥美　紀寿		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	15 (15) 人	配当学年	１回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	学術情報メディアセンター北館 4階 小会議室 (402) (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	オープンソース / プログラミング / ＳＮＳ / コミュニティ / ソフトウェアライセンス						

[授業の概要・目的]

個人的な日々の生活や企業活動等の社会的な営みにおいてネットは欠かすことができない社会インフラとなっており，我々は，ネットを通じて様々な情報を容易に取得・消費することができるだけでなく，ネットを通じて社会に容易に貢献できる時代に生きている．ネット社会の基盤の多くがソフトウェアで構築されており，特に，昨今のオープンソースソフトウェアの興隆は，生物の多様性が急速に拡大したカンブリア大爆発と同じような様相を呈している．このような背景の下，オープンソースソフトウェアのコミュニティへの貢献を通じて，自らが日々生きるネット社会をよりよくすることができるようになってきている．
本セミナーでは，オープンソースとして公開されているネットアプリケーションを題材に，コミュニティメンバとの協働作業によるソフトウェア開発を通じて貢献することで，ネット社会をプログラミングを通じて主体的に生き抜くための情報リテラシの研鑽を積む．

[到達目標]

オープンソースソフトウェアを対象にプログラミングを体感することにより，ネット社会に生きる知識人としての情報リテラシを身につける．

[授業計画と内容]

以下の項目について，それぞれ２週程度のテーマ学習と実習を行う．授業回数はフィードバックを含め全15回とする．
1. イントロ，インターネットアーキテクチャ
2. Slack 等ソーシャルウェア
3. ネットアプリケーションプログラミング
4. Git と GitHub
5. 著作権とソフトウェアライセンス
6. グループ開発課題
7. ソーシャルコントリビューション課題

[履修要件]

何らかのプログラミング言語を学習したことがあること．プログラミング言語や学校等での学習か独学は問わない．

ILASセミナー ：情報リテラシとしてのソーシャルプログラミング(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：情報リテラシとしてのソーシャルプログラミング(2)

[成績評価の方法・観点]

各項目ごとの課題レポートと最終課題レポートにより評価する．
・課題レポート(5回) 15点 x 75
・最終課題レポート 25点

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各自が所有するノートパソコンを使用してプログラミング実習を行うため，授業時間と同程度の授業時間外での準備や見直しが必要となる．

[その他（オフィスアワー等）]

本セミナーは，各自が所有するノートパソコンを使用しながら行う．また，別途用意する学習支援システムを通じて，教材の提供，オンラインでの質疑，課題レポートの提出・返却を行う．使い方は開講時に指示する．

[主要授業科目（学部・学科名）]